

科 目	学 部	学 科	専攻・コース	
小論文	家政学部	児童学科	—	
受験番号		氏 名		採 点

問1 図1は、内閣府およびこども家庭庁が平成21年度から毎年実施している「青少年のインターネット利用環境実態調査」から、平成26年度、平成29年度、令和2年度、令和5年度のインターネット利用率及びインターネット利用の際のスマートフォン利用率を、学校段階別に示したものである。各時期における利用状況の変化の特徴を、あなた自身やあなたの周囲の人々の利用実態を振り返りながら説明しなさい。(400字以内)

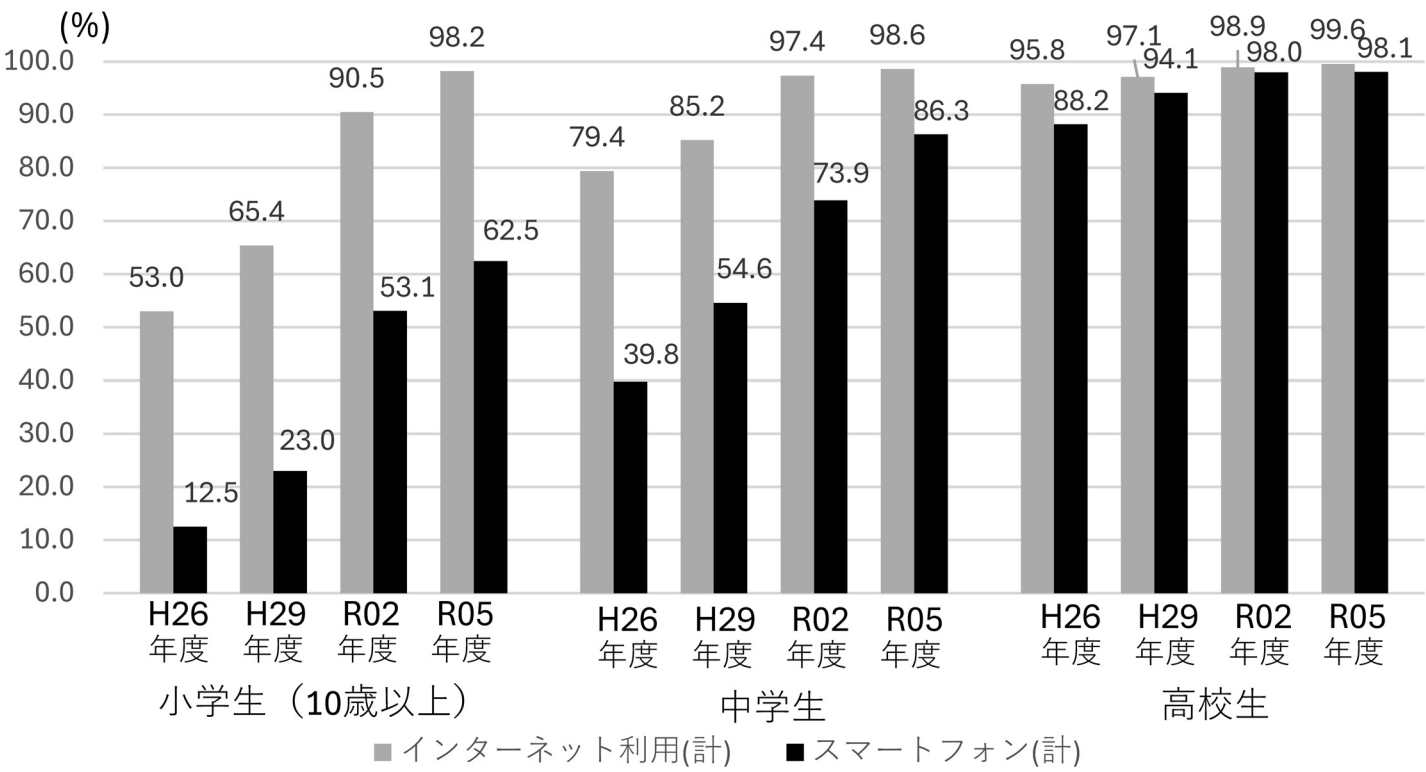


図1 青少年のインターネット利用率の経年比較

(出典：こども家庭庁 2024 令和5年度「青少年のインターネット利用環境実態調査」調査結果（概要）、
内閣府 2019 平成30年度「青少年のインターネット利用環境実態調査」調査結果（概要）より作成)

- (注1) 回答数は次の通り。
令和5年度：小学生 (n =953)、中学生 (n =1259)、高校生 (n =1048)
令和2年度：小学生 (n =1100)、中学生 (n =1407)、高校生 (n =1083)
平成29年度：小学生 (n =1016)、中学生 (n =1309)、高校生 (n =942)
平成26年度：小学生 (n =1080)、中学生 (n =1329)、高校生 (n =1007)
- (注2) 令和5年度は、「スマートフォン (計)」は、「スマートフォン」、「契約していないスマートフォン」のいずれかを利用すると回答した青少年。平成26年度、29年度、令和2年度は、「スマートフォン (計)」は、「スマートフォン」、「格安スマートフォン」、「子供向けスマートフォン」、「契約切れスマートフォン」のいずれかを利用すると回答した青少年。

科 目	学 部	学 科	専攻・コース	
小論文	家政学部	児童学科	—	
受験番号		氏 名		採 点

問2 枠内の文章を読み、ここでいう「遊び」とはどのようなものであると考えられるか、あなた自身の経験やこれまで学んできたことなどを踏まえて説明しなさい。(600字以内)

幼児には向かないタブレット学習

幼いころの記憶に、自分がリビングのテレビに釘付けになって、『5匹のアリは4頭のゾウより多い』〔訳注：1973年～75年に放映されたスウェーデンの子供向けテレビ番組。音楽に合わせて数字やアルファベットを紹介する〕を観ながら指で数を数えようとしている、というのがある。俳優のマグヌス・ヘーレンスタム、ブラッセ・ブレンストレーム、エヴァ・レメーウスが出演していた番組で、子供教育番組の傑作と言えるだろう。私の世代は、大勢の子供がこれを観て数や文字を覚えた。とびきり面白い番組だったのだ。

『5匹のアリ～』のような番組を観て子供が数字や文字を学び、さらには読解力を身につけられるのは間違いない。だが、教育テレビ番組を活用できるのは、学齢期に近い年齢になってからのようだ。そう思わせる兆候が多くある。2～3歳の幼児への効果はそれほどなく、親などとの直接の交流から学んでいるはずだ。

タブレット端末やスマホのアプリに『5匹のアリ～』と同じ効果がある可能性も大いにある。まだあまり研究の進んでいない分野とはいえ。しかし学習という点では教育番組と同じく、学齢期に近い子供に最も効果があるようだ。タブレット端末を「学習タブレット」と呼んで2歳児に持たせ、何かを学んでくれると思うのは希望的観測でしかない。

カロリンスカ医科大学付属病院小児科のヒューゴ・ラーゲルクランツ教授は長年、子供の脳の発達を研究してきた。彼はタブレット端末が発達を助けるというアイデアには批判的で、むしろ小さい子供の場合は発達が遅れる可能性もあるという。テクノロジーがごく幼い子供にも良いとする誤った考えは、子供たちを小さな大人として見ている点にあるとラーゲルクランツは指摘する。パズル遊びを例に取ってみよう。大人にとっては、アプリのパズルと本物のパズルにそれほど大きな違いはないだろう。一方、2歳児は本物のパズルをすることで指の運動能力を鍛え、形や材質の感覚を身につける。そういった効果はiPadでは失われてしまう。

別の例に、書く能力がある。皆がキーボードを使う今、手で書いたり、きれいな字を書く練習をするなんて何の意味もないように思えるかもしれない。だから、教室の窓から文字の練習帳を投げ捨てて、代わりにタブレット端末やパソコンで書くことに集中しよう！ もちろん、すでに書くことのできる大人はそれでいいだろう。しかしまだ書くことを習得していない場合は、ペンを使って練習をすることで文字を覚えていく。就学前の子供を対象にした研究では、手で、つまり紙とペンで書くという運動能力が、文字を読む能力とも深く関わっているのが示されている。

米国の小児科医のグループも、ラーゲルクランツと同じ主張をしている。小児科医の専門誌『Pediatrics（小児科学）』も、普通に遊ぶ代わりにタブレット端末やスマホを長時間使っている子供は、のちのち算数や理論科目を学ぶために必要な運動技能を習得できていないと警告している。

ラーゲルクランツらの主張には、米國小児科学会も賛同している。子供、特に1歳半未満の子供は、タブレット端末やスマホ使用を制限すべきだ、と。私に言わせれば「1歳半未満」という年齢設定自体バカバカしい。まともに喋ることはおろか、まだ歩くこともままならない子もいるのに。しかしすぐに考え直した。2歳児の8割が定期的にインターネットを利用しているという現実を考慮すれば、ちっとも無駄な推奨ではない。「子供は遊ばせよう」という記事の中で、米國小児科学会は「衝動をコントロールする能力を発達させ、何かに注目を定めて社会的に機能するためには、遊びが必要だ」と指摘している。問題は子供たちが遊ばなくなったことだ。「何もかもきっちり予定されていて“遊ぶ”なんて時代遅れ——大人がそう思っている現代に、我々は生きている」 医師たちには、ストレスフルな親に遊びを処方するようにも提案している。親子ともに忙しい時間割に組み入れなさいというわけだ。

(注) 文中のゴシック体文字は本文のままである
(出典) アンデシュ・ハンセン (著) 久山葉子 (訳) 2020 スマホ脳 新潮新書 pp.176-180.

